

Die Eiche

ディ アイヘ

<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche
Gesellschaft der Präfektur
Chiba

〒270-2214松戸市松飛台556-12
Tel./Fax: 047-385-1456

Mail: info@jdg-chiba.com



協会Home Page

2024運営委員 新体制発足にあたって 千葉県日独協会会長 木戸 裕

5月に開催されました総会で、金谷会長のあとを引き継ぎ、新会長を拝命いたしました。新たに発足した運営委員会におきまして、次のような体制で、本年度の業務を遂行していくことになりましたので、ご報告させていただきます。以下は、各部会等の長（正・副を○、○で表示）を務められる方々です（部会順不同）。



このうち「企画・広報」では、当協会の情報発信の在り方を中心に検討してまいりたいと考えています。「将来設計」は、当協会の将来像について中・長期的な視点から検討するものです。

運営委員会メンバー一同で、協力し合いながら課題に取り組んでまいります。それぞれ中心を担う担当者を置くことで、協会活動における協力体制のいっそうの強化と効率化も図っていくことができると考えております。

運営委員体制

慰霊祭：	○植松専務理事	○坂田常任理事
青壮年部：	○勝見常任理事	
編集：	○勝見常任理事	
会計：	○本橋常任理事	
企画・広報：	○本間常任理事	○本橋常任理事
		○勝見常任理事
将来設計：	○勝見常任理事	
イベント及び懇親会：	○坂田常任理事	
渉外：	○植松専務理事	○笹生理事
文化・教養：	○土屋常任理事	○勝見常任理事
語学講座：	○本間常任理事	○本橋常任理事

運営にあたっての基本方針は、以下のとおりです。

- 会長は、すべての部会等の最終責任者である。
- 事務局長は、すべての部会等の運営事務に関与する。
- 志賀顧問、吉川顧問は、すべての部会等において、随時助言等を行う。
- 運営委員は、可能な範囲において、すべての委員会の活動メンバーとなる。

なお、運営委員会にオブザーバーとして、笹生理事、山本理事、保坂理事に加わっていただけることになりました。とくに笹生理事には、渉外のご担当をお願いすることになりました。山本理事、保坂理事には、お時間の許す限り、竹内常任理事とともに青壮年部の活動にご尽力をいただければと存じます。

また青壮年部は、年齢に関わらず、すべての会員に開かれています。青壮年部では、活力をもった前途洋々たる若手が、人生経験豊富で、多彩な知見をもっておられる年長の会員と一緒に、将来を見据えたさまざまな興味深い企画とその実施に意欲的に取り組んでおります。会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

就任時の「ご挨拶」でも申し上げましたが、私のモットーとして、すべての会員の皆様が、千葉県日独協会の会員になってよかったと思っていられる会にしたい。当協会設立の理念に共鳴する会員が全員、年齢、職歴、その他、バックグラウンドを問わず、誰もが光輝くような、千葉県日独協会を目指していきたいと考えております。

そのためには、どのような活動を行っていったらよいのか。さまざまな機会を通して、会員の皆様から忌憚のないご意見、ご提言をいただきながら、運営委員一同で協会の運営に取り組んで参る所存です。

会員の皆様におかれましては、何卒よろしく、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

Dr.クレメンス・フォン・ゲッツェ駐日大使の さよならパーティーに参加して 千葉県日独協会名誉会長 金谷 誠一郎

7月10日、ドイツ連邦共和国大使公邸にてDr.クレメンス・フォン・ゲッツェ駐日大使とゾニヤ・フォン・ゲッツェ夫人の送別レセプションが開催されました。当日は、大使が在任中にお世話になった方々約300名が招待されました。



パーティーは18時30分より始まり、会場入り口で大使ご夫妻は、招待者一人一人と握手され、また、お言葉を交わされました。私からは、2022年と2023年のドイツ軍人慰霊祭に参列していただいたお礼を申し上げました。

会場の中は、宴半ばで小雨が降ってきたこともあり、肩が触れ合うほどいっぴいになりましたが、大使ご夫妻は、招待者の中でこやかに歓談されておられました。大使は、コロナ禍の2021年9月から駐日大使に着任され、その年の11月と12月には複数の日独協会を訪問されて、改めて対面での交流の大切さを実感されたとの事。（千葉県日独協会には11月30日訪問、懇談会が開催されました。）

世界では様々な困難なことが起きている現在、大使の役割も増大していると思います。

Dr.フォン・ゲッツェ駐日大使ご夫妻におかれましては、お体には十分にお気を付けてご活躍下さいませよう心から祈念いたします。

千葉県日独協会の渉外活動と 今後の方向性 専務理事兼事務局長 植松 健

千葉県日独協会は設立以来28年間、ドイツ軍人慰霊祭はじめ様々な魅力的行事を継続的に展開することにより、コロナ禍中に於いても常に100名以上の会員数を維持してきました(2024年9月末116名)。これは、会の発足以来150号を数える会報誌「Die Eiche」の発行、ホームページやSNS等を駆使しての対外向け情報発信、そしてコロナ禍でも対面式が出来なくても、オンラインでの会議や講演会・勉強会といった新しいカタチでの活動を可能にしたIT技術の進歩の存在があったことは贅言を要しません。



創立30周年を2年後に控えた今、「渉外活動とは？」について自分なりに考えてみました。

- ステークホルダーへの正確かつ迅速な情報発信と千葉県日独協会のプレゼンス高揚

1.基本方針（当協会の目指すもの）と協会の目的の明示

- 全ての会員が、年齢、職歴、その他を問わず、誰もが光輝ける組織を作る
- 全ての会員が、千葉県日独協会の会員になってよかったと実感できる組織を作る

- 全ての会員が、その家族や友人に自信を持って入会を勧めることができるような組織を作る
- 2.年間予定、恒例行事、特別行事、スケジュール他について、協会内・外部の重要情報の即時伝達
- 3.発信した情報に対する、ステークホルダーからの質問、意見や受け止め方の正確なフィードバック

■ 現行の広報活動の方法、媒体の検証と改善

1.紙（ハード）媒体

- 会報誌「Die Eiche」の隔月発行及び発送→第三者への協会説明時の有力な補助資料
- 船橋市FACE展示、習志野ドイツフェア、いちかわドイツデー等外部の催事への積極的参加

2.電子（ソフト）媒体

- ホームページ（Die Eiche電子版含む）→毎月一回更新
- Instagram、X（旧Twitter）、Facebook他→イベント毎に更新
- 会員メーリングリストを使った情報共有→都度発信

渉外活動に大切なことは、単なる情報発信活動だけでは充分とは言えず、常に外部の声に耳を傾け世の中の潮流を読み、ステークホルダーのニーズを正しくとらえて協会内にフィードバック出来る体制の構築だと思います。私はこれからも引き続き、千葉県日独協会の事務局長として、視覚・聴覚だけのオンラインだけに満足せず、五感全部を駆使した対面式「外交活動」に全力で取り組みたいと思っています。



ドイツ武官ベルズイック大佐宅での記念撮影

信頼している。両国関係の絆は、長い歴史に裏付けられている。

●今、時代の変革期であり、これまで以上に両国間の交流が必要となっており、実際、関係が深まっている。エネルギー問題、環境問題、安全保障問題、経済問題、多様性への対応、難民問題、ロシア中国への対応等々（何か漏れています）。ドイツ空軍とドイツ海軍との連携も具体的に強まった。



坂田常任理事

続いて日独協会 代表理事・会長は、現在の政界情勢の不安定について述べた後、日立の企業理念を事例として紹介されました。今、この時代に重要なのは、多様性の対応。日立グループの人員構成として60%が非日本人であり、現地法人との交流が必要なのは、日本からの一方的な指示では、現地法人は動かず、現地法人の文化伝統に根付いた商品、サービスの提供が新たなビジネスを創出すると言われていました。

以降、晴天の中の気持ち良い庭での立食パーティ開始。

私は、Die Brückeの編集担当の方とお話しできました。会報誌作成の考え方や体制、将来、相互誌面交流しますかなどと盛り上がりました。

その後、大使とお話しをしに行きました。私は、11月の青壮年部会のテーマが「パレスチナとドイツ」であったので、厄介なテーマですが質問させてくださいということで「年初、ドイツ首相は、我々は常にイスラエルの側に立つ」と発言されました。目下、イスラエルとパレスチナの戦闘は、激しさを増している。ドイツでは、パレスチナについて声を上げる動きはないのか。と尋ねました。大使は、ドイツは、イスラエルの国としての存続は、当然、認めていく姿勢だが、人権問題にかかわる非人道的な事象については、適切に対応していく必要があると、イスラエルに対する国としての存在は勿論、国是ではあるが、スタンスは変化したとしました。ドイツは是々非々で捉えるスタンスなのだと思います。継続的に青壮年部のドイツ時事問題座談会でその兆候を確認するテーマを発見できたと思いました。充実した大使館夏祭りでした。ありがとうございました。



大使に質問中の筆者

ドイツ大使館主催

Sommer-Partyに参加して

常任理事 勝見 浩明



9月23日、ドイツ大使館主催の夏祭りに坂田常任理事と一緒に参加しました。当日は、天候に恵まれ大使館公邸の中庭での立食パーティでは、多くの参加者が着任早々のジークムント大使と懇談したい方の列ができ、参加者同士での和気あいあいの風景を目にすることができました。例年、ドイツ大使館主催の夏祭りは開催されていますが、今年は、各地の日独協会関係者も多く参加していました。



ドイツ大使公邸

冒頭、ジークムント大使から以下の内容の挨拶がなされました。

●日独両国の関係は、2つの層で関係付けられる。一つは、経済界との二国間関係は、経済分野におけるしっかりと友好関係を深化させる必要とする一方、日独協会の活動は、市民レベルでの交流、つまり、両国の基盤の活動であり、重要な位置付。

●日独政府間協定が2023年より、始動され、交流促進されている。ドイツ政府にとってこの協定を結ぶ対象は、とてもドイツにとって重要な国と位置付けている。

●ドイツと日本は、9,000km離れているが、同じ価値観を持っている。相互



ジークムントドイツ大使

新入会員紹介（南木 雅弘）

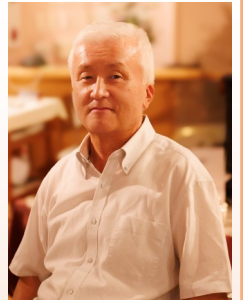
高校1年生の時に見たNHK特集が事の発端でしょうか。ドイツの戦後から現在までの様子のレポート番組で、今や当たり前な高齢者への給食サービス、兵役忌避者は社会福祉施設での奉仕活動が認められること、食より住という観点からの持ち家制度等々、同じ敗戦国でありながら日本との大きな違いを見た私はドイツに強い関心を持つようになりました。

高校3年の時に小塩節先生のNHKドイツ語講座を見てドイツ語の発音の美しさを知り、更に関心が深まりました。大学院までの専攻は全く異なる生命科学分野でしたが、大学の必修選択のドイツ語で担当者だった萬沢先生が使った、Wolfgang Borchertの詩や文章がこれまた印象的でドイツ語やドイツ文化に嵌っていきました。

その後、またこれも奇縁ですがハンドボールの指導をするようになり、Handballの基本言語がドイツ語であったこと、指導者向けの雑誌がドイツ語しかなかったことでドイツやドイツ語は離れられない存在となりました。

今回、機会あって約1年1ヶ月ドイツに滞在し、大学附属語学学校に通い大学進学を目指しましたが、高齢者には国の健康保険の加入が認められない等諸事情があり、残念ながら断念し帰国しました。そんな折、協会の勝見常任理事からのお誘いを受け入会させていただける運びになりました。

毎日、少しずつ忘れていくドイツ語ですが、貴会に入会して常に刺激をいただき、更に色々なドイツ文化を吸収して若返りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



「音楽を聴こう!」活動でドニゼッティ作曲「ルチア」鑑賞のとき

ドイツの街紹介

ナチ政府に毅然と抗議した大司教の街

Münster

会員 南木 雅弘

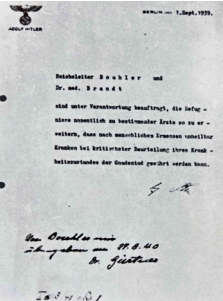
DortmundからRB（普通電車）で約1時間の所にあるMünsterは、実は以前にも2回程ハンドボール関係で訪ねた事がありました。Die Euthanasie-Politik（安楽死政策）から国民を守ったカトリックの大司教がいた街とは知りませんでした。そこで、昨年2回程この街を訪ねました。彼の名は、Clemens August Graf von Galen（クレメンスアウグスト グラフ フォン ガーレン）。ナチ体制下にも関わらず前述の安楽死政策に毅然と反対し、「私を逮捕するのならいつでも来なさい。私は教会の前でいつでも待っています」と豪語した逸話が残る人物でした。

ここで、安楽死政策について簡単に述べておきましょう。1939年9月1日、折しも第二次世界大戦開戦の日、ヒトラーはいわゆるAktion T4という極秘指令を出しました。その文書には「医師の判断により安楽死を認める」とあります。この通知の下に当時のドイツ国内に6ヶ所の「安楽死施設」が設けられました（詳細は後日）。そして、精神的、肉体的に障害をもったドイツ人が子どもまでDas wertloses Leben（生きる価値のない命）として、中経病院を経てこれらの施設に灰色バスに乗せて集められ、一酸化炭素ガスで殺され火葬されました。しかし、極秘に行われたはずのこの作戦も、煙突から排出される煙の臭いで地域住民に勘付かれ、遂にガーレン大司教の耳に入ることになりました。

この情報に怒った大司教は、1941年3回反ナチ説教を行いました。特に8月3日、Die St. Lambertikirche（聖ランベルティ教会）で行ったミサの説教では、集まった信者の前で、モーゼの十戒「殺してはならない」を引用し、「非生産的」という理由で無垢の人を殺害することは罪であるとの残酷な行為を強く非難したのでした。もちろん、これは彼個人の考えだけではなく、1940年のドイツ・カトリック教会議の決定にも基づくものでした。そして、ローマ教皇ピウス12世も同年末、同様に安楽死政策を明白に否定しました。つまり、カトリック教会は一丸となってこの安楽死政策を否定したのでした。もちろん、Evangelische Kirche（プロテスタント教会）も同様に反対しました。

この大司教の批判は当然ナチ政府の耳にも入りましたが、大司教の住民からの信望の篤さに躊躇し逮捕には至りませんでした。今では司教座聖堂の前に大司教の像が立てられています。私は、あの独裁政権時代に、小さな命を守るために独裁者と闘ったガーレン大司教に敬意を表し、像の前で頭を垂れるしかありませんでした。なお、ガーレン大司教の3回の説教原文は現地の教会でも手に入るようです。（ネットでもダウンロードできます）

Münsterの街は世界史の教科書でも登場する、「Der Westfälische Friedensschluss（ヴェストファーレン条約）」の締結地としても有名で、条約締結の間は今でも保存され見学することができました。街も非常に落ち着いていて、今回はここに宿泊したいと思いました。皆さまも、中世だけではなく現代の歴史もある美しい街Münsterにぜひ行ってみてください。



ヒトラーの秘密命令書



ガーレン大司教像



聖ランベルティ教会



Münster旧市街



市庁舎と歴史的町並み



ヴェストファーレン講和条約締結の場

ドイツがくれた世界観



ドイツと私 -風間 康宏-

「法律を勉強するならドイツ語だ」。大学入学時、第二外国語としての履修言語を選ぶ際、迷っていた私に対し父が放った一言です。当時の私は「早く法律を勉強したい」という気持ちばかりで、語学には全く興味がなく、いわば父のその一言だけでドイツ語を学ぶことを決めたのでした。振り返ってみれば、父の言葉がなければ、今こうして筆を執らせていただくこともなかったのかなと思います。

私は、司法試験合格後、福島県で司法修習を終え、2016年に検察官に任官しました。これまで東京都、千葉県、京都府、静岡県でそれぞれ勤務し、現在は再び千葉県で働いています。京都府で働いていた頃、突然上司に呼ばれ、「ドイツの在外研究員として声が掛かっている」と言われ、要するに、私が希望すればドイツで法制度を研究できるとのことでした。渡航先がドイツとされていたのは、大学時代に第二外国語としてドイツ語を学んだことが影響していたようです。始めは「自分にできるのか」と悩みましたが、「一生に一度くらい海外赴任もしてみようか」と思い直し、渡独を決意しました。

2023年2月に渡独し、同年12月までの間、Düsseldorfに滞在しつつ、Nordrhein-Westfalen州の司法関係機関を訪問して刑事法関係の制度を研究しました。私はそれまでヨーロッパに渡航した経験がなく、始めは何をするにも不安ばかりでしたが、学生時代にドイツ留学をしていた妻と一緒に渡独してくれたお陰で、なんとかやりくりできました（一人で留学していた妻のことを心から尊敬しました笑）。

滞在中は、公私を問わずたくさんのドイツ人に会い、ドイツ料理や日本食を食べに行ったり、お互いの国のことを語り合ったり、とても刺激的な時間を過ごしました。自然の豊かさ、人生に対する価値観などそれまで感じたこともなかったような日本とのギャップを痛感し、日々驚きの連続でしたが、気付いたら「もっと長くここで住んでいたい」と感じていました笑。日本と異なるドイツの法制度を学べたこと、Currywurstを何度も食べたこと、サッカー日本代表対ドイツ代表の試合をスタジアムで観戦したこと、本場のクリスマスマーケットを体験できたことなどは、特に忘れられない思い出です。

向こうでの生活が楽しすぎて、もう仕事で使う機会もないのに、今もドイツ語の勉強を続けています（現在C1受験中。目標はC2合格！笑）。これからもドイツのことを学び、再びドイツの地を踏みみたいと思っています！



習志野ドイツフェア&グルメフェスタ

開催報告

常任理事 坂田 博

毎年の恒例行事となっておりますドイツフェア&フードフェスタが、習志野市にとっては市制70周年を記念する行事の1つとして、又、会場でありますモリシア津田沼の立替再開発前最終の大会イベントとして、9月21日（土）、22日（日）の2日間に渡り、盛大に開催されました。

当協会は、以前よりそのフェアに日独交流に関するパネル展示を行う等により、協力参加してまいりました。その中で今回も、当協会ブースへ習志野市宮本市長やドイツ大使館ベルギー・クック大佐を含めまして多数の来訪者がありましたが、その数が年々増えていることもあり、習志野市や千葉県国際交流課からのサポートがより強くなったと感じたフェア参加でありました。特に、千葉県より、日独や千葉県・デュッセルドルフ関係のノベルティや資料を大量に提供いただき、家族連れやブース来訪者を含めま



ドイツ武官と記念菩提樹

て、非常に好評を博すことができました。昨年のフェアより、パネル展示以外の展示も行っておりますが、今回は、ドイツ大使館の前担当武官から寄贈いただきました「ボトルシップ」および当協会保管の「ベルリンの壁」を展示いたしました。これらの展示物に対し、興味を持たれる来訪者も多く、記念撮影をされる方も多く見られました。このような来訪者の反応は、当協会の存在意義向上のヒントを与えてくれました。今後も、千葉県内行政機関との協働イベントが、定期的に行われます。Die Eicheなどで告知いたしておりますが、一般会員の皆様からのアイデアも期待しておりますので、事務局にまでご一報をください。



会場に展示されていたボトルシップ



千葉県日独協会ブース全景



習志野市長の来訪

青壮年部最近の活動とその背景について

常任理事/青壮年部部長 勝見 浩明



前号の“Die Eiche No.150”において青壮年部は、2024年度の活動として、より具体的に活動を行うことに軸足をシフトしました。具体的には、青壮年部会は、従来、隔月で開催してきましたが、毎月開催に変更しました。但し、テーマは、ドイツ時事問題とドイツ歴史を懇談会形式にテーマを交互に開催する形式に変更しました。

9月の青壮年部懇談会では、最近の東部ドイツ地区のAfDの躍進について懇談。次回のドイツ自治問題の懇談のテーマは、パレスチナ問題とドイツになります。10月のドイツ歴史は、プロイセンの歴史概要にフォーカスしようと思っています。

留意すべき点は、いずれの懇談会においても組織の共有知見を持ち寄るのですが、持参する知識の多寡はあまり関係ありません。少ない知見、あるいは、関心はあるものの、知識がほとんどない、問題ありません！私自身は、学者ではありません。専門家でないので、誤った理解、中途半端な理解で臨んでいると思います。多少誤っていても良いと思っています。重要なことは、座談会で繰り広げ得られる各種情報から、共有知見を形成し、新たな疑問や継続的に探索するポイントを発見して継続できれば、この活動の立ち上がりは順調と解釈します。スモールスタートで組織のコアコンピタンスを楽しく醸成できれば成功です。

また、2024年度から実践回数を着実に伸ばしているのは、「音楽を聴こう！」活動です。この活動の背景は、芸術を心底楽しもうという想いととも、その作品の作曲当時の社会の状況、歴史的な背景も捉えることができると思います。また、実際に会員同士でリアルにご集まることで会員間の交流促進も目的の一つとしています。これらの活動にご関心お有りの方、勝見までご連絡ください。

今回、紹介する作品は、1892年ミラノで初演されました。19世紀は、とても歴史的にも興味深いです。ナポレオン戦争が終結し、レポレオン以前の旧体制に戻そうとウィーン会議（1814-1818）が行われ列強の代表者が集まります。ここで言われている旧体制とは、貴族社会の領邦国家の再現です。一方、1830年以降は、欧州各国で市民が主体の革命的な動きが加速します。法の下における自由平等を市民は求め、工業化社会も進展、多くの労働者も誕生するのですが、生活苦であったなど背景にあったかと思えます。オペラの世界でも神話を題材としたものから、王宮、貴族が舞台となった作品に遷移、更に日常の一般の現実的な人々の生活や感情を描くことにフォーカスした作品が描かれるようになりました。

8月下旬、この「音楽を聴こう！」の活動の一環で鑑賞した「道化師」は、まさに一般の村の住民が対象です。この作品の中では、大道芸人座長のカニオには、うら若い美しいネッダという妻がいました。ネッダは、この大道芸人の一座に入り生活、その過程で座長カニオの妻となります。ネッダは、カニオの嫉妬深さ、強い支配欲から逃れ、もっと自由に生きたいとの想いが強まります。一方

で若い農夫シルヴィオと恋仲になるのです。一座の中にトニオという喜劇役者がいました。彼は、ネッダに想いを寄せる気持ちを告白するのですが、彼女から激しく拒絶され、ネッダへの仕返しを図ります。カニオ不在時、ネッダとシルヴィオとの密会を座長カニオに内部通報します。ネッダは、恋仲のシルヴィオに駆け落ちに同意、「永遠にあなたのものよ！」ということを告げます。その密会現場を目撃したカニオは、激昂、しかし、取り逃がします。ネッダに彼の名前を聞き出そうしますが、彼女は、口を割りません。夜、一座の劇が行われます。劇中劇の中で座長カニオは、道化師に扮しますが、その劇中劇が、まさにその直前で起きた現実と同じ状況となります。劇中劇でネッダはコロンビーナという役で登場、劇中でアツレキーノと恋仲になっており（真ん中の写真）、道化師不在時の逢瀬を楽しみます。「永遠にあなたのものよ！」というセリフを言います。劇中劇と現実の区別がつかなくなり、最終的にネッダとその恋人を殺傷してしまいます。



束縛された生活から解放されることを願うネッダ。ソプラノ中畑有美子さん

この内容の表面的な一連の物語を解釈すると、妻の不貞による激昂した夫による刃傷沙汰となってしまいます。19世紀後半における社会情勢、当時の女性の位置づけを捉えて解釈するとどのようにとらえることができるでしょうか。まず、婚姻関係という視点では、経済的に自立が難しい時代において女性が自由に結婚相手を選ぶことができない状況でしばしば、家族の経済的安定、社会的地位を得るための手段であったようです。とすると、カニオとの結婚は、ネッダからすると自由恋愛の結果の婚姻ではなく、シルヴィオとの関係により真実の愛に到達したと捉えることができます。むしろ、人生の中で当時の社会情勢では、実現することができなかった真の愛する人と結ばれる女性の自由を純粋に求めた結果ではないかととらえると、単に浮気という点で責められない時代であったと理解できるのではと思います。



劇中劇の一コマが現実と同様



カニオの激昂が悲劇となって終える

今回の演奏では、SQUADRAが主催、制作企画されました。演出は、代表 山本竜介氏が率いる、この芸術家集団の創意工夫の結晶です。ネッダを演じたソプラノの中畑有美子さんをはじめ、出演された声楽家皆様が有する高度な歌唱技術と表現力で非常に印象深い公演でした。一緒に参加した会員は、涙して感動したと終演後、語られていました。9月もこの活動の一環でDonizetti作の「ランメルモールのルチア」の鑑賞を行いました。10月以降も定期的に行います。ジャンルは問いません。一緒に芸術を堪能しましょう。

今後の予定

- ドイツ軍人慰霊祭（詳細、別途ご案内）
日時 2024年11月17日 11:00-11:50
場所 習志野霊園他
- 青壮年部ドイツ歴史研究-オンライン講演（詳細、別途ご案内）
日時 2024年12月14日 18:00-19:30
講師 神戸大学大学院国際文化研究科 衣笠先生-会員
- 第46回習志野第九合唱団定期公演会（詳細、別途ご案内）
日時 2024年12月14日

会員情報

新人会員 青山 彌紀 播磨 美穂 吉田 恵美子
法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人 清和会、(株) 京葉ビル管理、(株) 和幸電気工事、
 バイエルンストゥーベ by ダンク

ご報告

去る3月3日にお亡くなりになった第2代会長 平尾浩三先生（名誉会長）の奥様美智子様より多額のご寄付を当協会に頂戴いたしました。ありがとうございました。

編集後記

2024年体制も明確になり、内外活動が明らかになり、テーマごとの検討も加速化するものと思っております。協会設立30周年を控える中、協会の内外活動についての中長期的方向性の素案作成の準備も行いたいと思っております。結果、会長方針にもある「会員の皆様が会員になってよかった」が実現できるような方向性が共有できればと思います。